

総括

■ 機能種別

主たる機能種別「一般病院2」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および12月3日～12月4日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

機能種別	一般病院2	認定
------	-------	----

■ 改善要望事項

- ・機能種別 一般病院2
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は、市民からの信頼と地域貢献、人間味あふれる温かな医療、高度・専門医療と優れた医療人の育成を理念に掲げ、大阪市の中核病院として高度急性期医療を提供している。また、地域がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、総合周産期母子医療センター、3次救急救命センター、小児救急救命センターに指定され、二次医療圏における医療に貢献している。さらに高難度医療技術の導入や臨床研究にも取り組み、多職種の医療者の初期研修や学生実習など、人材育成にも尽力している。

今回の訪問審査においても、高度専門的な医療を行いながら、患者の安全に配慮したチーム医療を実践されていることが確認できた。また、特筆すべき取り組みが数多くあった。地域への情報発信、地域の医療・介護施設との連携、地域の救急医療への貢献、活発なチーム活動、小児患者や外来化学療法患者への支援、組織的な質改善活動、情報の有効活用、職員の教育研修を挙げておきたい。

一方、医療を取り巻く社会情勢の変化に伴い、病院に求められる質と安全の水準はますます高まっている。そのため、病院が主体となって継続的な改善活動に取り組むことが求められる。今回の外部評価の結果も活用し、貴院の改善への取り組みがさらに深化して一層の発展につながることを祈念する。

2. 理念達成に向けた組織運営

病院組織の運営はおおむね適切に行われ、秀でた取り組みも見られる。病院の理念・基本方針、中長期計画、年次計画を策定し、計画的・効果的な組織運営を行っている。院内の情報を医療の質や安全性、効率性の改善に向け有効に活用してい

る。特に、独自の診療情報モニタリングシステムの開発・活用は秀でた取り組みである。一方、より詳細な組織図の作成が望まれる。人事・労務管理は適切に行われている。

必要な人材を計画的に確保し、職員の就労管理、安全衛生管理を適切に行っている。職員満足度調査の実施、福利厚生への配慮など、職員が意欲を持って仕事に取り組め、魅力ある職場となるよう支援している。教育研修センターが一元管理する体制のもと、教育・研修への取り組みは秀でている。全職員対象の必須研修は内容が充実し、受講率が高い。また、全職種を対象にキャリア形成支援が行われ、職員は専門性を高めている。初期研修、学生実習は適切に行われている。

3. 患者中心の医療

患者の意思を尊重した医療は適切に行われている。小児を含めて患者の権利を明確にし、実践の場面で擁護している。患者が理解できるよう説明を行い、同意を得る際には患者の意思を尊重している。患者用クリニカルパス、心不全患者の自己管理ノートなど、患者の医療への参加や主体性を促進している。患者支援体制、個人情報保護・管理は適切である。臨床における倫理的課題について、病院として把握・検討を継続的に行い、方針を定めている。また、倫理コンサルテーションチーム、カンファレンス等で検討し、誠実に対応している。

療養環境の整備と利便性の確保は適切に行われ、秀でた取り組みも見られる。患者・家族、面会者の安全性・利便性・快適性に配慮するとともに、高齢者・障害者にも配慮している。敷地内禁煙の徹底、患者向けの禁煙啓発活動などにより、受動喫煙を防止している。快適な病棟・病室環境の整備、清潔な寝具類の提供など、患者の療養環境を整備している。特に、年代別の院内学級と教員の配置、プレイルールの整備など、小児患者にとって安心して治療が受けられる環境の整備は秀でている。

4. 医療の質

継続的質改善のための取り組みはおおむね適切に行われ、秀でた取り組みも見られる。病院が主体となり、業務の質改善に向け体系的かつ継続的に取り組んでいる。特に、医療の質改善活動発表会の開催、職員からのボトムアップ型の改善活動などにより質改善の組織文化が病院全体に醸成されており、高く評価できる。臨床指標・質指標の活用などによる診療の質の向上に向けた活動、患者・家族の意見の収集・活用による医療サービスの質向上に向けた活動は適切に行われている。新たな診療・治療方法や技術や臨床研究は、病院として審査・承認して実施している。一方、医薬品・医療機器の適応外使用について管理手順の整備が望まれる。また、クリニカルパスのバリエーション分析について、より積極的な取り組みが望まれる。

良質な医療の実践に向けた診療・ケアの質の確保は適切に行われ、秀でた取り組みも見られる。診療・ケアの管理・責任体制、診療記録の記載は適切である。特に、多職種が協働した診療・ケアの実践については、20もの専門チームが組織横断的に積極的に活動しており、秀でている。

5. 医療安全

患者の安全確保に向けた取り組みはおおむね適切に行われているが、より一層の取り組みが望まれる。医療安全管理部門の設置と専従担当者の配置、委員会の設置などの体制を整備している。院内のアクシデント・インシデント等の情報を収集・分析・検討し、事故防止に向けた改善活動を継続的に行っている。医療事故の発生時、患者・家族に誠実に対応している。一方、各部署の医療安全を担当するリスクマネージャーは、各診療科の医師に対しても任命が望まれる。院内医療事故調査委員会等での検証は、医療法で規定する医療事故以外の重大事例に対しても検討できる仕組みの整備が望まれる。

良質な医療の実践に向けた診療・ケアの安全の確保はおおむね適切に行われている。情報伝達エラー防止対策、転倒・転落防止対策、医療機器の安全使用は適切に行われている。一方、患者・部位誤認対策のより確実な実践に向け、マニュアルの周知・徹底や見直しが望まれる。また、脊髄造影用造影剤の取り違い防止に向け、より確実な対策が望まれる。

6. 医療関連感染制御

医療関連感染制御に向けた取り組みはおおむね適切に行われている。医療関連感染制御部門の設置と専従担当者の配置、全部署への感染制御リンクスタッフの配置、委員会の設置などの体制を整備し、権限を付与された担当者が病院長と連携して活動するなど、医療関連感染制御に向けた体制が確立している。院内の医療関連感染に関する情報、院外の感染発生・感染防止対策に関する情報を収集・分析・検討し、感染防止に向けた改善活動を継続的に行っている。

良質な医療の実践に向け、診療・ケアにおける医療関連感染制御は適切に行われている。各部署で標準予防策・感染経路別の予防策、手指衛生、個人防護具の使用、感染性廃棄物や血液・体液の付着した病衣・リネン・寝具類の取り扱いなど、感染防止対策を実践している。抗菌薬の適正使用に向け、起炎菌・感染部位の特定、抗菌薬の使用状況の医師への定期的なフィードバックなど、抗菌薬適正使用推進チームが組織横断的に活動している。

7. 地域への情報発信と連携

地域への情報発信と連携の取り組みは秀でている。地域の医療関連施設等の状況や機能、医療ニーズを把握し、自院の地理的条件、担うべき政策医療、理念を踏まえ、地域の医療関連施設等と連携している。特に、心不全患者のケアに関する地域の医療・介護施設の連携ネットワーク構築は秀でた取り組みである。

地域医療機関や地域住民に向け、糖尿病、慢性腎臓病、がん医療セミナーなど、公開講座を積極的に開催し、Webでも視聴可能にしており、高く評価できる。さらに、広報活動を積極的に行い、ホームページは見やすく、医療の質の透明化を図っており、地域への情報発信活動は秀でている。一方、紹介患者の地域医療機関への返信の作成においては、初回以降の返信についても確実な管理が望まれる。

8. チーム医療による診療・ケアの実践

良質な医療の実践に向け、患者の受入れから外来・入院診療、退院後の継続に至るまでの一連の診療・ケアがチーム医療によっておおむね適切に実践され、秀でた取り組みも見られる。病院の診療機能からみて小児患者に配慮した診療・ケアは特徴的である。具体的には鎮静における安全確保、小児がん患者への緩和ケアなどが挙げられる。その他の特徴的な取り組みとして、入院患者の約半数に患者用クリニカルパスを用いて説明している。

退院後に地域連携パスを活用し、地域の医療機関と連携して患者の状況に合わせた継続診療を行っている。特に、外来患者に対する抗がん剤治療については、注射薬に留まらず、内服薬による治療中の患者に対しても一体的に支援する体制は秀でている。一方、抗菌薬の投与時に患者の状態・反応を観察しているが、その記録の徹底が望まれる。また、輸血療法の患者説明において、輸血同意書に想定される輸血内容をより充実に記載することを期待したい。

9. 良質な医療を構成する機能

良質な医療の実践に向けた各構成機能は、病院の機能・規模に応じて適切に発揮され、秀でた取り組みも見られる。小児患者に対する取り組みは特徴的である。栄養管理機能では、遠足の弁当、ハロウィンイベントに対応した食事などの行事食を提供している。画像診断機能では小児患者のプロトコルや補助具を整備し、小児に配慮したアニメや映像を提供している。放射線治療機能では、ホスピタルプレイスペシャリストを配置し、小児患者不安の低減に努めている。

その他の特徴的な取り組みとして、手術・麻酔機能では術後疼痛管理チームが病棟を訪問し、集中治療機能・リハビリテーション機能では療法士が早期から介入して早期離床に貢献している。特に、救急医療機能は秀でている。3次救急医療機関として、24時間365日、乳児から成人まで、地域の重症患者を受け入れており、地域の救急医療における社会貢献度は非常に大きく、高く評価できる。小児救命救急センターにも指定され、小児救急医療の最後の砦になっている。その他、薬剤管理機能、臨床検査機能、病理診断機能、輸血・血液管理機能、医療機器管理機能、洗浄・滅菌機能、診療情報管理機能は、病院の役割・機能に応じて適切に発揮されている。

10. 組織・施設の管理

経営管理は適切に行われている。財務・経営管理において、予算管理、財務諸表の作成、会計処理、経営状況の把握と分析に基づく経営管理を実施している。医事業務において、窓口業務や保険請求業務、未収金への対応を組織的かつ合理的に行い、病院経営に活用するためのデータを収集・提供している。業務委託において、委託の是非の検討と委託先の選定、委託業務の履行確認と質の評価を行っている。施設・設備管理は適切に行われている。

自院の役割・機能に応じた施設・設備を計画的に整備し、日常点検、定期的な保守管理を行うとともに、医療ガスの安全管理、廃棄物の管理・処理を行っている。

医薬品、医療消耗品、医療機器などの購入、在庫管理など、購買管理を行っている。病院の危機管理は適切に行われている。火災や大規模災害等を想定し、病院の機能存続計画を策定している。また、マニュアルなどの対応体制の整備、訓練、備蓄、災害派遣医療チームの派遣を行っている。保安業務は委託によって実施しており、院内巡視や時間外・休日の入退館者の確認、緊急時の連絡など日々の業務実施状況を把握している。

1 患者中心の医療の推進

評価判定結果

1.1	患者の意思を尊重した医療	
1.1.1	患者の権利を明確にし、権利の擁護に努めている	A
1.1.2	患者が理解できるような説明を行い、同意を得ている	A
1.1.3	患者と診療情報を共有し、医療への患者参加を促進している	A
1.1.4	患者支援体制を整備し、患者との対話を促進している	A
1.1.5	患者の個人情報適切に取り扱っている	A
1.1.6	臨床における倫理的課題について継続的に取り組んでいる	A
1.2	地域への情報発信と連携	
1.2.1	必要な情報を地域等へわかりやすく発信している	S
1.2.2	地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携している	B
1.2.3	地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている	S
1.3	患者の安全確保に向けた取り組み	
1.3.1	安全確保に向けた体制が確立している	B
1.3.2	安全確保に向けた情報収集と検討を行っている	A
1.3.3	医療事故等に適切に対応している	B
1.4	医療関連感染制御に向けた取り組み	
1.4.1	医療関連感染制御に向けた体制が確立している	A
1.4.2	医療関連感染制御に向けた情報収集と検討を行っている	B
1.5	継続的質改善のための取り組み	
1.5.1	業務の質改善に向け継続的に取り組んでいる	S

1.5.2	診療の質の向上に向けた活動に取り組んでいる	B
1.5.3	患者・家族の意見を活用し、医療サービスの質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
1.5.4	倫理・安全面などに配慮しながら、新たな診療・治療方法や技術を導入している	B
1.6	療養環境の整備と利便性	
1.6.1	施設・設備が利用者の安全性・利便性・快適性に配慮されている	A
1.6.2	療養環境を整備している	S
1.6.3	受動喫煙を防止している	A

2 良質な医療の実践 1

評価判定結果

2.1	診療・ケアにおける質と安全の確保	
2.1.1	診療・ケアの管理・責任体制が明確である	A
2.1.2	診療記録を適切に記載している	B
2.1.3	患者・部位・検体などの誤認防止対策を実践している	B
2.1.4	情報伝達エラー防止対策を実践している	A
2.1.5	薬剤の安全な使用に向けた対策を実践している	B
2.1.6	転倒・転落防止対策を実践している	A
2.1.7	医療機器を安全に使用している	A
2.1.8	患者等の急変時に適切に対応している	B
2.1.9	医療関連感染を制御するための活動を実践している	A
2.1.10	抗菌薬を適正に使用している	A
2.1.11	患者・家族の倫理的課題等を把握し、誠実に対応している	A
2.1.12	多職種が協働して患者の診療・ケアを行っている	S
2.2	チーム医療による診療・ケアの実践	
2.2.1	来院した患者が円滑に診察を受けることができる	A
2.2.2	外来診療を適切に行っている	S
2.2.3	診断的検査を確実・安全に実施している	A
2.2.4	入院の決定を適切に行っている	A
2.2.5	診断・評価を適切に行い、診療計画を作成している	A
2.2.6	患者・家族からの医療相談に適切に対応している	A
2.2.7	患者が円滑に入院できる	A

2.2.8	医師は病棟業務を適切に行っている	A
2.2.9	看護師は病棟業務を適切に行っている	A
2.2.10	投薬・注射を確実・安全に実施している	B
2.2.11	輸血・血液製剤投与を確実・安全に実施している	B
2.2.12	周術期の対応を適切に行っている	A
2.2.13	重症患者の管理を適切に行っている	A
2.2.14	褥瘡の予防・治療を適切に行っている	A
2.2.15	栄養管理と食事支援を適切に行っている	A
2.2.16	症状などの緩和を適切に行っている	A
2.2.17	リハビリテーションを確実・安全に実施している	A
2.2.18	身体拘束（身体抑制）の最小化を適切に行っている	A
2.2.19	患者・家族への退院支援を適切に行っている	A
2.2.20	必要な患者に継続した診療・ケアを実施している	A
2.2.21	ターミナルステージへの対応を適切に行っている	A

3 良質な医療の実践 2

評価判定結果

3.1	良質な医療を構成する機能 1	
3.1.1	薬剤管理機能を適切に発揮している	A
3.1.2	臨床検査機能を適切に発揮している	A
3.1.3	画像診断機能を適切に発揮している	A
3.1.4	栄養管理機能を適切に発揮している	A
3.1.5	リハビリテーション機能を適切に発揮している	A
3.1.6	診療情報管理機能を適切に発揮している	A
3.1.7	医療機器管理機能を適切に発揮している	A
3.1.8	洗浄・滅菌機能を適切に発揮している	A
3.2	良質な医療を構成する機能 2	
3.2.1	病理診断機能を適切に発揮している	A
3.2.2	放射線治療機能を適切に発揮している	A
3.2.3	輸血・血液管理機能を適切に発揮している	A
3.2.4	手術・麻酔機能を適切に発揮している	A
3.2.5	集中治療機能を適切に発揮している	A
3.2.6	救急医療機能を適切に発揮している	S

4 理念達成に向けた組織運営

評価判定結果

4.1	病院組織の運営	
4.1.1	理念・基本方針を明確にし、病院運営の基本としている	A
4.1.2	病院運営を適切に行う体制が確立している	B
4.1.3	計画的・効果的な組織運営を行っている	A
4.1.4	院内で発生する情報を有効に活用している	S
4.1.5	文書管理に関する方針を明確にし、組織として管理する仕組みがある	A
4.2	人事・労務管理	
4.2.1	役割・機能に見合った人材を確保している	A
4.2.2	人事・労務管理を適切に行っている	A
4.2.3	職員の安全衛生管理を適切に行っている	A
4.2.4	職員にとって魅力ある職場となるよう努めている	A
4.3	教育・研修	
4.3.1	職員への教育・研修を適切に行っている	S
4.3.2	職員の能力評価・能力開発を適切に行っている	S
4.3.3	専門職種に応じた初期研修を行っている	A
4.3.4	学生実習等を適切に行っている	A
4.4	経営管理	
4.4.1	財務・経営管理を適切に行っている	A
4.4.2	医事業務を適切に行っている	A
4.4.3	効果的な業務委託を行っている	A

4.5 施設・設備管理

4.5.1	施設・設備を適切に管理している	A
-------	-----------------	---

4.5.2	購買管理を適切に行っている	A
-------	---------------	---

4.6 病院の危機管理

4.6.1	災害時等の危機管理への対応を適切に行っている	A
-------	------------------------	---

4.6.2	保安業務を適切に行っている	A
-------	---------------	---

年間データ取得期間： 2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日
 時点データ取得日： 2024 年 8 月 1 日

I 病院の基本的概要

I-1 病院施設

I-1-1 病院名： 地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター

I-1-2 機能種別： 一般病院2

I-1-3 開設者： 市町村

I-1-4 所在地： 大阪府大阪市都島区都島本通2-13-22

I-1-5 病床数

	許可病床数	稼働病床数	増減数(3年前から)	病床利用率(%)	平均在院日数(日)
一般病床	975	863	+34	85.9	9.4
療養病床	0				
医療保険適用	0				
介護保険適用	0				
精神病床	55	50	+0	78.5	40.1
結核病床	0				
感染症病床	33	29	+5	59.5	10.3
総数	1063	942	+39		

I-1-6 特殊病床・診療設備

	稼働病床数	3年前からの増減数
救急専用病床	13	+0
集中治療管理室 (ICU)	28	+0
冠状動脈疾患集中治療管理室 (CCU)	0	+0
ハイケアユニット (HCU)	12	+0
脳卒中ケアユニット (SCU)	6	+0
新生児集中治療管理室 (NICU)	12	+0
周産期集中治療管理室 (MFICU)	6	+0
放射線病室	2	+0
無菌病室	19	+10
人工透析	11	+0
小児入院医療管理料病床	127	+10
回復期リハビリテーション病床	0	
地域包括ケア病床	0	
特殊疾患入院医療管理料病床	0	
障害者施設等入院基本料算定病床	0	
緩和ケア病床	24	+0
精神科隔離室	0	
精神科救急入院病床	28	+1
精神科急性期治療病床	0	
精神療養病床	0	
認知症治療病床	0	

I-1-7 病院の役割・機能等

地域医療支援病院, 災害拠点病院(地域), 救命救急センター, がん診療連携拠点病院(地域), エイズ治療拠点病院, DPC対象病院(DPC特定病院群), 総合周産期母子医療センター

I-1-8 臨床研修

I-1-8-1 臨床研修病院の区分

医科 ☒ 1) 基幹型 ☐ 2) 協力型 ☒ 3) 協力施設 ☐ 4) 非該当
 歯科 ☒ 1) 単独型 ☐ 2) 管理型 ☐ 3) 協力型 ☐ 4) 連携型 ☐ 5) 研修協力施設
☐ 非該当

I-1-8-2 研修医の状況

研修医有無 ☒ 1) いる 医科 1年目： 18 人 2年目： 16 人 歯科： 1 人
☐ 2) いない

I-1-9 コンピュータシステムの利用状況

電子カルテ ☒ 1) あり ☐ 2) なし 院内LAN ☒ 1) あり ☐ 2) なし
 オーダリングシステム ☒ 1) あり ☐ 2) なし PACS ☒ 1) あり ☐ 2) なし

